

# E-Post BossCheck Server

## 追加機能補足マニュアル

2008年7月 Rev1.1

2009年8月 Rev1.2

2010年1月 Rev1.3



株式会社イー・ポスト



E-Post およびイー・ポストは、株式会社イー・ポストの日本における登録商標です。

Microsoft、Windows および Windows Server は、米国およびその他の国の Microsoft 社の登録商標または商標です。

その他の社名および製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

本マニュアルの無断複製および引用を禁じます。

©イー・ポスト

## E-Post BossCheck Server 追加機能補足マニュアル 目次

2008年6・7月アップデートでのBossCheck Server機能強化点	3
① [(新設) 保留通知メール]: 送信者が送信したとき、承認者(上長)が承認するまでメールが保留される旨の“保留通知メール”が送信者宛に送られるように設定できる。	4
② [(新設) 承認待ちメールの取得機能]: 送信者が自分の送ったメールがどのくらい承認待ちになっているか、コマンドを送ることにより、随時、承認待ちメールを取得し内容を知ることができる。	5
③ [(新設) 代理承認者の代理設定機能]: 承認者(上長)が代理承認者を設定した後、代理承認者がさらにその代理を設定できる。設定で何段階までかの階層指定も可能。	6
④ [(改善) 承認待ちリスト取得機能]: 承認者(上長)が、waitlist_コマンドで承認待ちリストを取得したとき、タイトル(件名)と一緒に表示されるようになった。	7
⑤ [(改善) 送信済み承認メールの情報表示]: 承認者が送信済み承認メールの表題からは、承認メールの件名部分がエンコードされているため、これまでは内容が判断できなかったが、送信済みメールを表示すると、送信日付、送信者(承認依頼者)アドレス、件名情報が本文中に表示されるようになった。	8
⑥ [(改善) 承認依頼メールの送信先アドレス表示]: 承認者(上長)が、承認依頼メールを受信したとき、[承認][却下]の下に、[送信先アドレス]が表示されるようになった。これにより、メールヘッダだけでは確認できないBCCで指定したアドレスも知ることができるようになった。	9
⑦ [(改善) 代理承認者宛の通知メール]: 代理承認者宛に「代理承認者になった」旨の通知メールが届けられるようにした	10
⑧ [(改善) 代理承認者アドレスの入力ミス検知]: ⑦と関連するが、承認者が「setproxyuser_代理承認者アドレス」を指定する際、間違えて存在しないアドレスを指定した場合、通知メールが不達になることで、承認者に返される“delivery failure”メールもしくは、“user unknown”メッセージにより、間違いに気づくことができるようになった	10
2009年8月アップデートでのBossCheck Server機能強化点	11
① [(改善) 代理承認・代理承認解除時のメッセージが変更可能]: 代理承認・代理承認解除時の通知メールのメッセージが変更できるようになった	12
② [(改善) 代理承認者宛の解除通知メール]: 代理承認者宛に「代理承認者が解除された」旨の通知メールが届けられるようにした	13
2009年12月アップデートでのBossCheck Server機能強化点	14
① [(改善) 開封通知メールの除外設定]: 添付ファイル付きの条件下でも開封通知メールを除外対象にできる	14



## 2008年6・7月アップデートでのBossCheck Server 機能強化点

2008年6月・7月アップデートによるBossCheck Server 機能強化のポイントは下記の通りです。

アップデートは、2008年6月のE-Post Mail Server および E-Post SMTP Server の修正差分プログラムを適用することで行われます。EPSTRS のバージョン v4.57 以降が以下の機能を利用できます。

### ① [(新設) 保留通知メール] :

送信者が送信したとき、承認者(上長)が承認するまでメールが保留される旨の“保留通知メール”が送信者宛に送られるように設定できる。

### ② [(新設) 承認待ちメールの取得機能] :

送信者が自分の送ったメールがどのくらい承認待ちになっているか、コマンドを送ることにより、随時、承認待ちメールを取得し、内容を知ることができる。ただし、あくまで送信者自身が送ったメールが対象。

### ③ [(新設) 代理承認者の代理設定機能] :

承認者(上長)が代理承認者を設定した後、代理承認者がさらにその代理を設定できる。設定で何段階までの階層指定も可能。

### ④ [(改善) 承認待ちリスト取得機能] :

承認者(上長)が、waitlist\_コマンドで承認待ちリストを取得したとき、タイトル(件名)と一緒に表示されるようになった。

### ⑤ [(改善) 送信済み承認メールの情報表示] :

承認者(上長)が、承認した後、送信済み一覧の表題を見ると、承認メールは、“approval・・・”で始まり、却下メールは、“reject・・・”で始まるが、タイトル(件名)部分がエンコードされているため、従来は送信済み一覧からでは内容が判断できなかった。アップデート後は、送信済み一覧から送信済みメールを選択すると、送信日付、送信者(承認依頼者)アドレス、および件名の情報が本文中に表示されるようになった。

### ⑥ [(改善) 承認依頼メールの送信先アドレス表示] :

承認者(上長)が、承認依頼メールを受信したとき、[承認][却下]の下に、[送信先アドレス]が表示されるようになった。これにより、メールヘッダだけでは確認できない BCC で指定したアドレスも知ることができるようになった。ただし、TO,CC,BCC の表示上区別はない。

### ⑦ [(改善) 代理承認者宛の通知メール] :

代理承認者宛に「代理承認者になった」旨の通知メールが届けられるようにした。

### ⑧ [(改善) 代理承認者アドレスの入力ミス検知] :

上記⑦と関連するが、承認者が「setproxyuser\_代理承認者アドレス」を指定する際、間違えて存在しないアドレスを指定した場合、通知メールが不達になることで、承認者に返される “delivery failure”メールもしくは、“user unknown”メッセージにより、間違いに気づくことができるようになった。なお、上記⑦⑧に伴う制限事項として“sender.dat”に設定できる(最初の)承認者は、仕様として、2つのアドレスまでとなった。

① [(新設) 保留通知メール] :

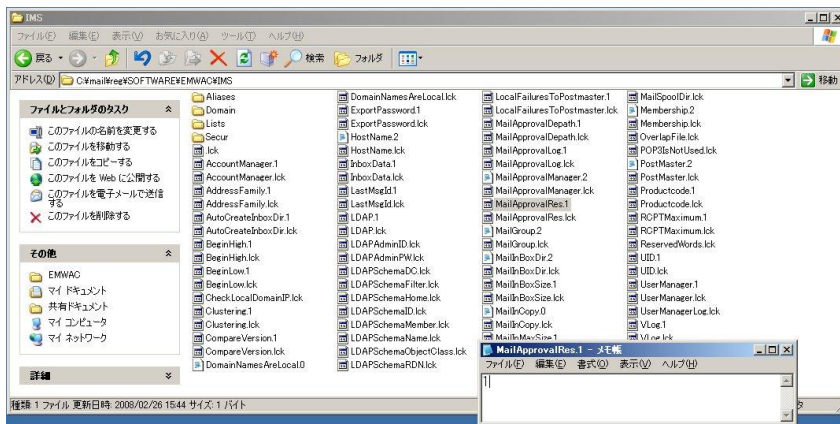
送信者が送信したとき、承認者（上長）が承認するまでメールが保留される旨の“保留通知メール”が送信者宛に送られるように設定できる。

送信者が送信したとき、承認者（上長）が承認するまでメールが保留される旨の“保留通知メール”が送信者宛に送られるように設定できるようになりました。

アップデート後、次の設定が必要です。

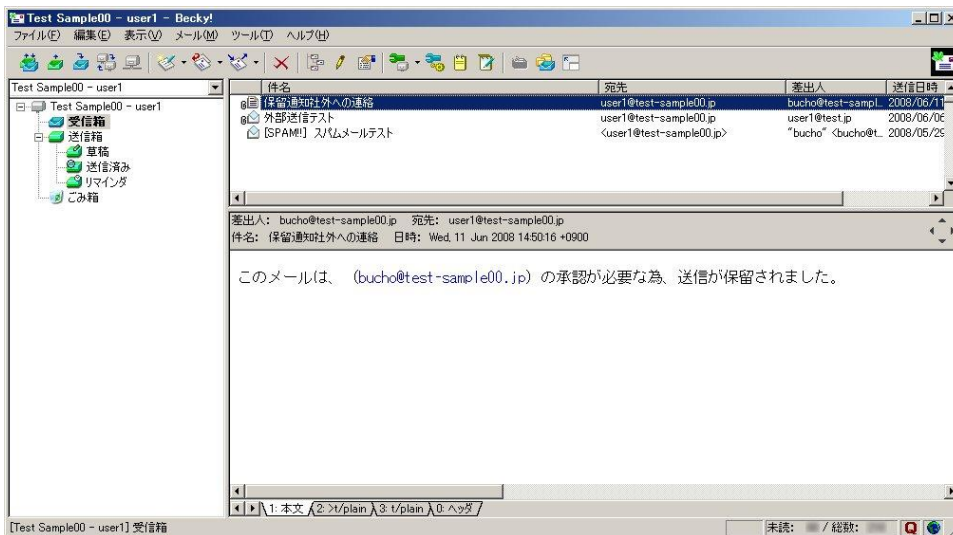
メール作業フォルダ(例・C:\¥mail など)の下記指定フォルダ内に” MailApprovalRes.1”という名前のテキストファイルを作成し、その中に設定値を記述します。

<メール作業フォルダ>\¥REG¥SOFTWARE¥EMWAC¥IMS¥MailApprovalRes.1  
 (デフォルト値=1 / 0:保留通知なし, 1:保留通知あり)



保留通知メールが不要な場合は”0”、保留通知メールが必要な場合は”1”を記述します。行末の改行は不要です。ファイルを保存したら、Mail Control 画面の [サービス制御]タブより、EPSTRS サービスを再起動させてください。

承認が必要なメールを送信者が送ると、直後に“保留通知メール”が送られてきます。



▲Becky! InternetMail の事例

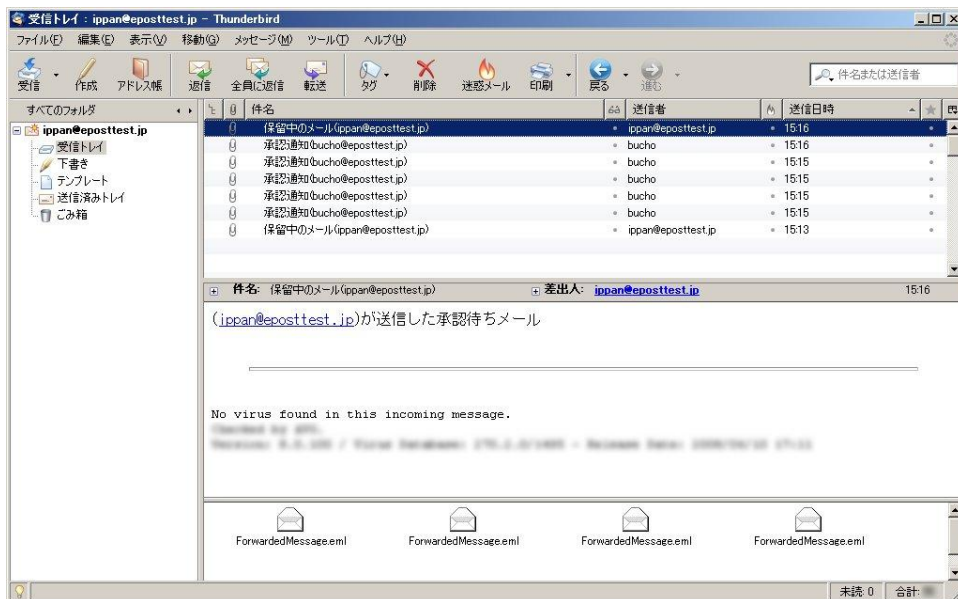
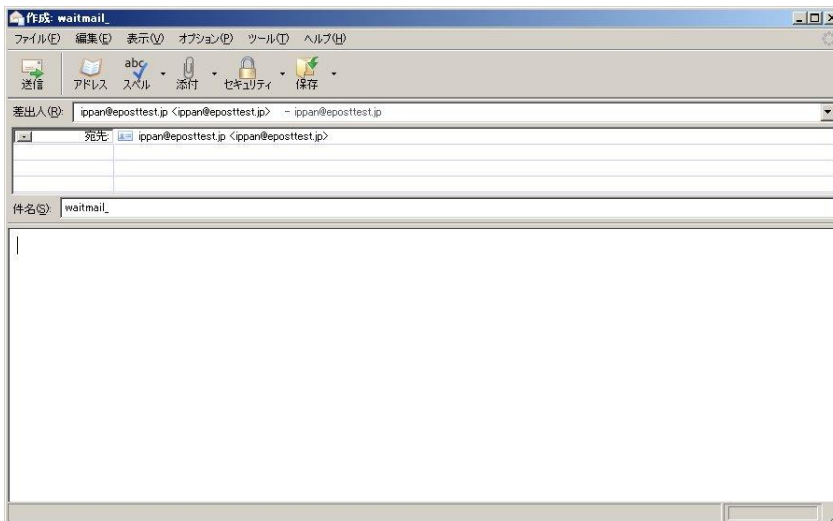
② [(新設) 承認待ちメールの取得機能] :

送信者が自分の送ったメールがどのくらい承認待ちになっているか、コマンドを送ることにより、随時、承認待ちメールを取得し内容を知ることができる。

送信者が自分の送ったメールがどのくらい承認待ちになっているか、コマンドを送ることにより、随時、承認待ちメールの内容を知ることができるようになりました。ただし、あくまで送信者自身が送ったメールが対象となります。

アップデート後の設定は不要です。

送信者が件名に”waitmail\_”とだけ入力し、自分宛に送ると、直後に“承認待ちメール”が.eml形式で添付されて送られてきます。



▲Thunderbird の事例

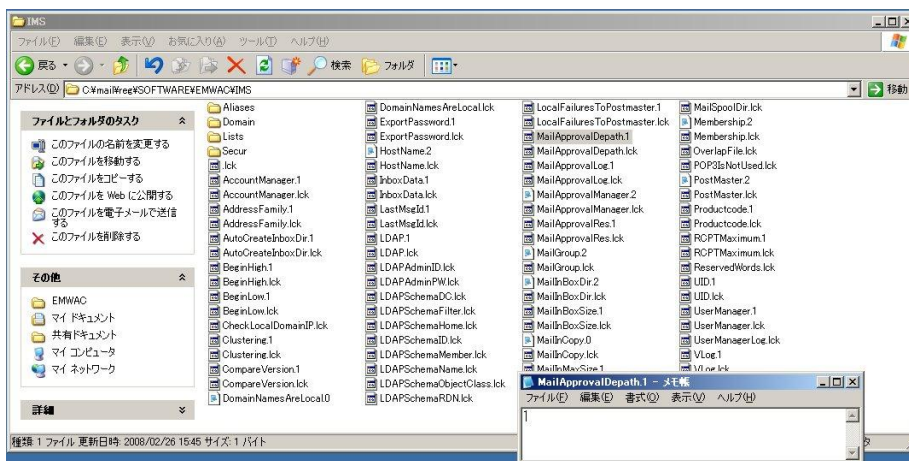
③ [(新設) 代理承認者の代理設定機能] :

承認者(上長)が代理承認者を設定した後、代理承認者がさらにその代理を設定できる。設定で何段階までかの階層指定も可能。

承認者(上長)が代理承認者を設定した後、代理承認者がさらにその代理を設定できるようになりました。設定で何段階までかの階層指定も可能です。設定上は多段階が設定可能ですが、実際の運用ではあまりにも複雑になってしまうため、せいぜい2段階、つまり代理の代理承認を1階層までにとどめた指定を推奨します。代理の代理承認を1階層まで認めるなら”1”を指定します。ファイルを保存したら、Mail Control 画面の [サービス制御] タブより、EPSTRS サービスを再起動させてください。

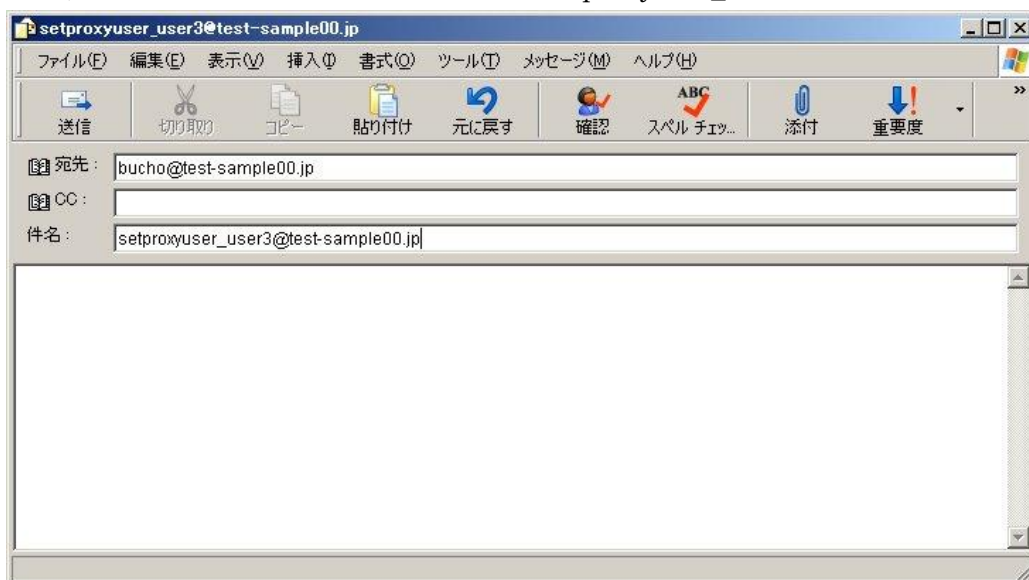
通常の代理承認のみなら設定ファイル自体を削除してください。”0”を指定することはできません。

<メール作業フォルダ>¥REG¥SOFTWARE¥EMWAC¥IMS¥MailApprovalDepath.1  
(デフォルト値=1 / 1~:回帰的に可能な代理承認の深さ)



承認者が代理承認を設定する方法は、従来通り、件名に”setproxyuser\_[代理者のメールアドレス]”を入力し、自分宛に送信します。代理承認者がさらに代理承認を行う方法も、同じ方法で行います。

代理承認の解除については、本来の承認者が件名に”setproxyuser\_”とだけ入力し、自分宛に送信します。



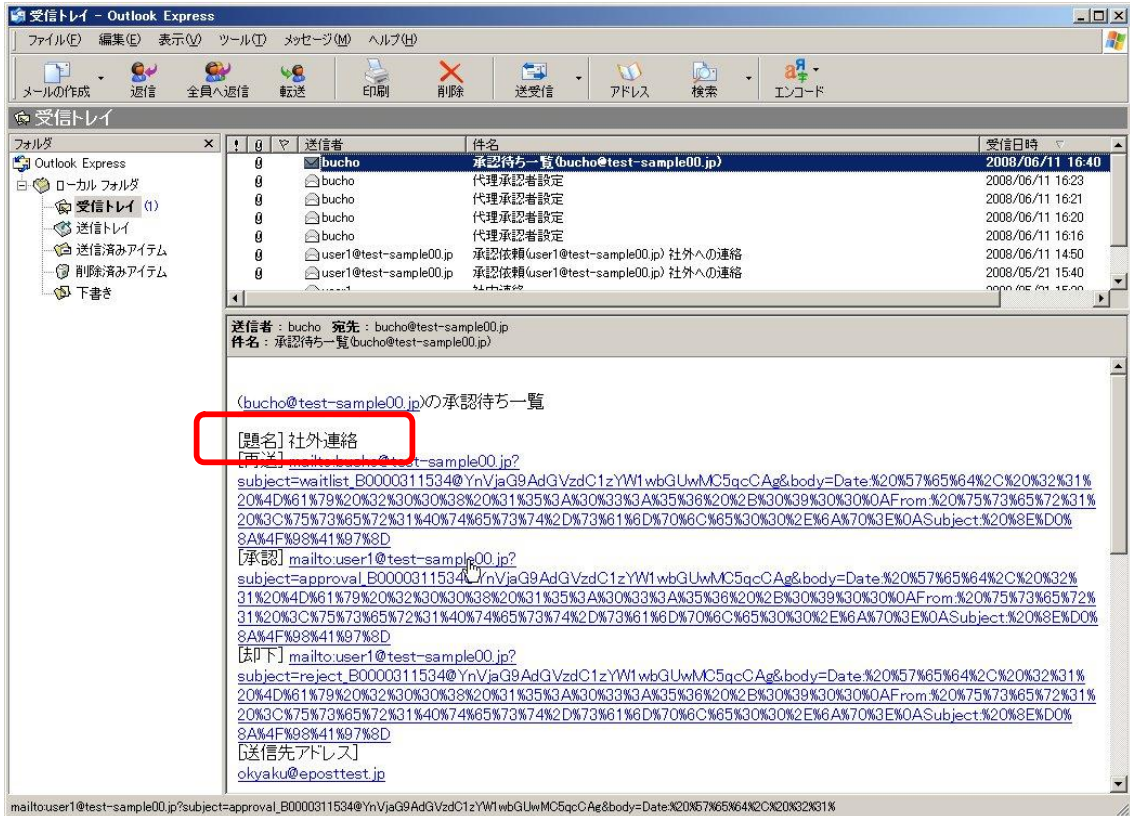
▲ Outlook Express の事例

④ [(改善) 承認待ちリスト取得機能] :

承認者(上長)が、waitlist\_コマンドで承認待ちリストを取得したとき、タイトル(件名)と一緒に表示されるようになった。

承認者(上長)が、waitlist\_コマンドで承認待ちリストを取得したとき、タイトル(件名)が[題名]として、一緒に表示されるようになりました。

アップデート後の設定は不要です。



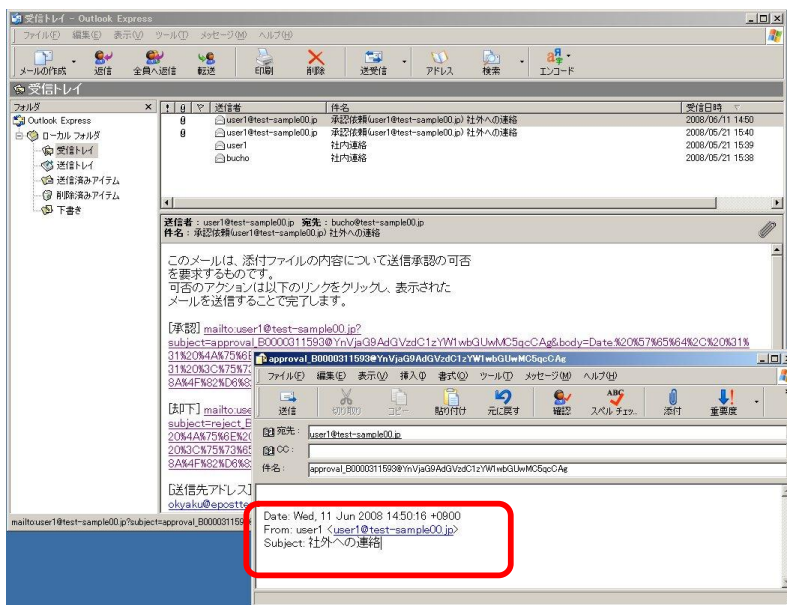
▲ Outlook Express の事例

⑤ [(改善) 送信済み承認メールの情報表示] :

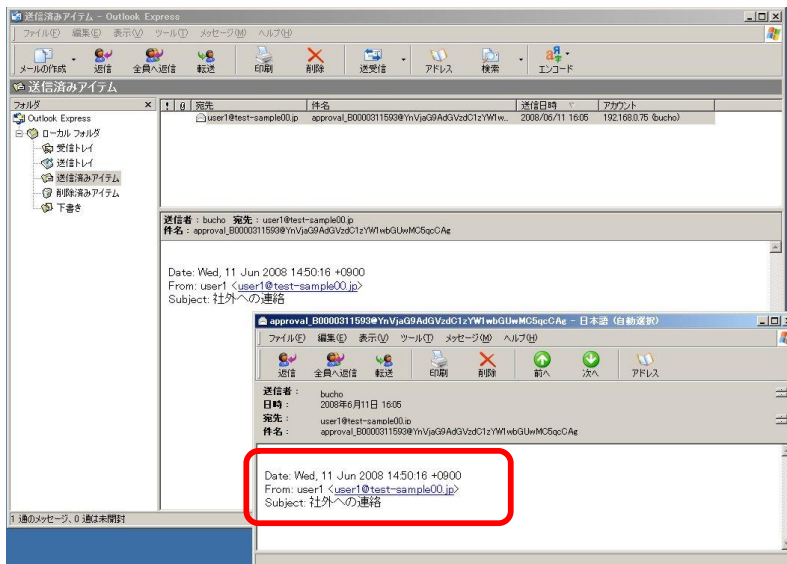
承認者が送信済み承認メールの表題からは、承認メールの件名部分がエンコードされているため、これまでは内容が判断できなかったが、送信済みメールを表示すると、送信日付、送信者（承認依頼者）アドレス、件名の情報が本文中に表示されるようになった。

承認者(上長)が、承認した後、送信済み一覧の表題を見ると、承認メールは、"approval・・・"で始まり、却下メールは、"reject・・・"で始まりますが、件名部分がエンコードされているため、これまでのバージョンでは、送信済み一覧からでは内容が判断できませんでした。アップデート後は、送信済みメールを表示すると、送信日付、送信者(承認依頼者)アドレス、および件名が本文中に表示されるようになりました。また当然ですが、送信時にも同様の内容は確認できます。アップデート後の設定は不要です。

※なお、OutlookExpress や Outlook、Shuriken、Becky では正常に表示されますが、Thunderbird で Subject 文字部分が文字化けすることが判明しています。



▲ Outlook Express の事例(承認メールを送信するとき)



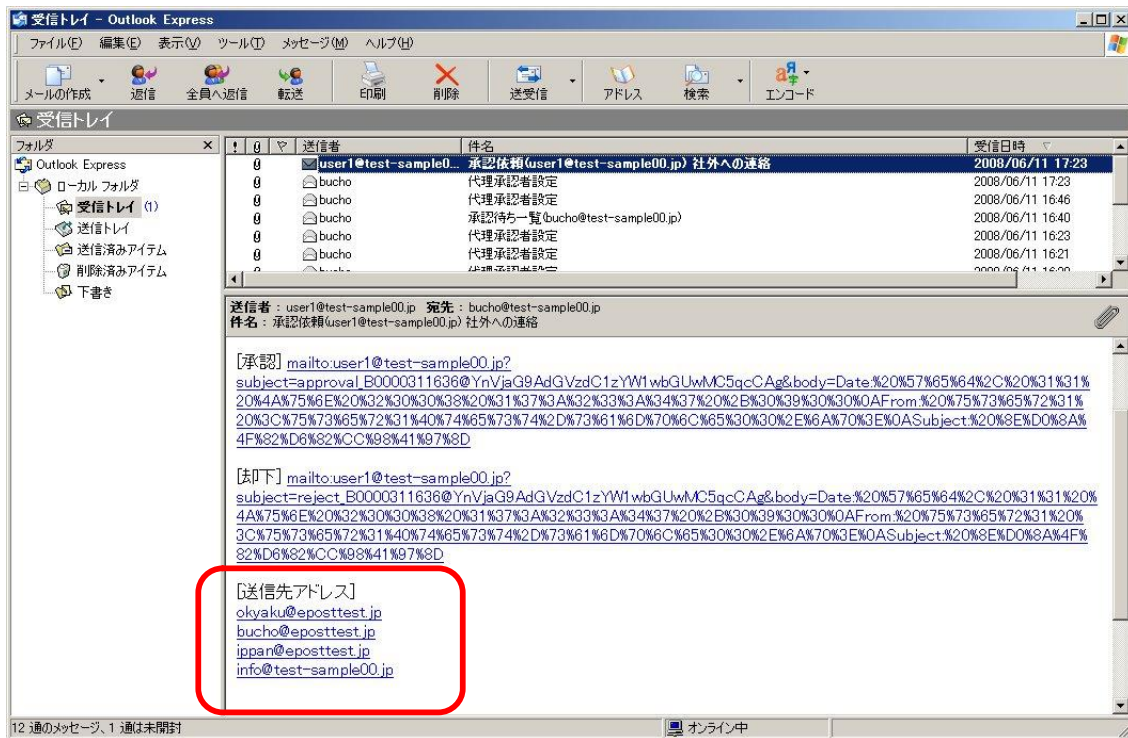
▲ Outlook Express の事例(承認メール送信済み一覧を表示したとき)

⑥ [(改善) 承認依頼メールの送信先アドレス表示] :

承認者（上長）が、承認依頼メールを受信したとき、[承認] [却下] の下に、[送信先アドレス] が表示されるようになった。これにより、メールヘッダだけでは確認できない BCC で指定したアドレスも知ることができるようになった。

承認者(上長)が、承認依頼メールを受信したとき、[承認][却下]の下に、[送信先アドレス]が表示されるようになりました。これにより、メールヘッダだけでは確認できない BCC で指定したアドレスも知ることができるようになります。ただし、TO、CC、BCC の表示上区別はありません。

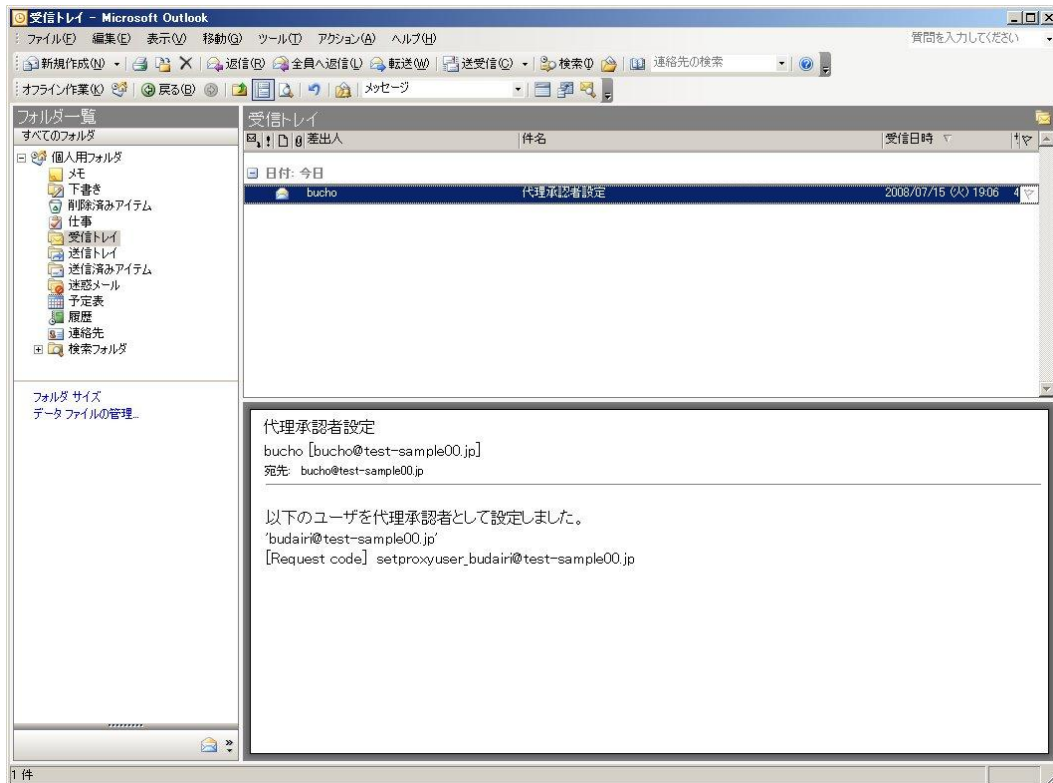
アップデート後の設定は不要です。



⑦ [(改善) 代理承認者宛の通知メール] :

代理承認者宛に「代理承認者になった」旨の通知メールが届けられるようにした

承認者(上長)が、件名に「setproxyuser\_代理承認者アドレス」を自分宛に送信する方法で、代理承認を設定したとき、承認者(上長)だけでなく、代理承認者宛にも、「代理承認者になった」旨の通知メールが送られるようになりました。これにより、代理承認者は承認を開始するタイミングを知ることができるようになります。



⑧ [(改善) 代理承認者アドレスの入力ミス検知] :

⑦と関連するが、承認者が「setproxyuser\_代理承認者アドレス」を指定する際、間違えて存在しないアドレスを指定した場合、通知メールが不達になることで、承認者に返される "delivery failure"メールもしくは、"user unknown"メッセージにより、間違いに気づくことができるようになった

また、同時に代理承認者宛に通知メールが送られることで、万が一、「setproxyuser\_代理承認者アドレス」のアドレス部分を入力ミスしたときには、通知メールが不達になることで、"delivery failure"メールが返ってくることで、間違いに気づくことができるようになりました。

アップデート後の設定は不要です。

なお、上記⑦⑧に伴う制限事項として"sender.dat"に設定できる(最初の)承認者は、仕様として、2つのアドレスまでとなりました。

## 2009年8月アップデートでのBossCheck Server 機能強化点

2009年8月アップデートによるBossCheck Server 機能強化のポイントは下記の通りです。

アップデートは、2009年8月のE-Post Mail Server および E-Post SMTP Server の修正差分プログラムを適用することで行われます。EPSTRS のバージョン v4.62 以降が以下の機能を利用できます。

### ① [(改善) 代理承認時のメッセージが変更可能] :

承認者(上長)が代理承認を設定したり、代理承認を解除するときに、”setproxyuser\_”コマンドでBossCheck Server に命令を送信するが、代理承認を設定したり、解除されたときに出力される文字列(メッセージ)が変更可能になった。変更する文字列(メッセージ)は、JIS エンコードした文字列をレジストリ情報に設定する必要がある。

### ② [(改善) 代理承認解除時の代理承認者への通知] :

代理承認解除時の通知が代理承認者にもメールで通知されるようになった。特別な設定は不要。

① [[改善] 代理承認・代理承認解除時のメッセージが変更可能] :

代理承認・代理承認解除時の通知メールのメッセージが変更できるようになった

承認者(上長)が代理承認を設定したり、代理承認を解除するときに、”setproxyuser\_”コマンドで BossCheck Server に命令を送信しますが、代理承認を設定したり、解除されたときに出力される文字列(メッセージ)が変更可能になりました。変更する文字列(メッセージ)は、JIS コードにエンコードされた文字列を直接レジストリ情報に設定しておくことで、通知メールのメッセージが変更されます。通知メールは、承認者(上長)、代理承認者双方とも同じ内容のものが同報されるため、メッセージの内容はどちらが見ても違和感のないメッセージにする必要があります。

**[代理承認設定・代理承認解除の通知メールメッセージの変更]**

(1) 変更したい文字列(メッセージ)を JIS コードにエンコードします。

具体的な方法は書籍の『E-Post Mail Server 完全ガイド』P.125～P.128 か、Web の「メールサーバ構築ガイド」([http://www.e-postinc.jp/epmsent\\_construct\\_guide/](http://www.e-postinc.jp/epmsent_construct_guide/))の「20.自動応答を設定してみよう」を参考にしてください。メッセージを JIS コードに変換するには、サポート2で配布している文字コード変換ツール「UnicodeConv.exe」を使うことも可能です。

**(代理承認時の例)** …… %s は setproxyuser\_<代理承認者アドレス>で指定されるアドレス

%s が承認者に任命・就任されました。

↓

%s< \$B\$,>5G'<T\$KG\$L?!&="G\$\$5\$1\$^\$7\$?!#<- (B

**(代理承認解除時の例)** …… %s は使用不可

承認者権限が解除されました。上長が承認者です。

↓

<- \$B>5G'<T8"8B\$,2r= | \$5\$1\$^\$7\$?!#>eD9\$,>5G'<T\$G\$9!#<- (

(2) レジストリエディタを開き、以下のキーを(文字列値)でそれぞれ作成します。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE  
SOFTWARE  
EPOST  
BOSSCHECK  
proxymessage40

HKEY\_LOCAL\_MACHINE  
SOFTWARE  
EPOST  
BOSSCHECK  
proxymessage41

(3) proxymessage40 の値に、代理承認時のメッセージ、前段階で JIS エンコードした文字列を貼り付けます。



書式: %s <代理承認メッセージ>

※ %s 部分は、代理承認任命アドレスが差し込まれるトークン

(4) proxymessage41 の値に、代理承認解除時のメッセージ、前段階で JIS エンコードした文字列を貼り付けます。



書式: <代理承認解除メッセージ>

※代理承認解除時には、%s は使えません。

なお、代理承認設定・解除メッセージを BossCheck Server 標準のものに戻すには、上記で作成したキー、proxymessage40、proxymessage41 をまるごと削除します。

## ② [(改善) 代理承認者宛の解除通知メール] :

代理承認者宛に「代理承認者が解除された」旨の通知メールが届けられるようにした

承認者(上長)が、件名に「setproxyuser\_」を自分宛に送信する方法で、代理承認を解除したとき、承認者(上長)だけでなく、代理承認者として割り当てられていた担当者宛にも、「代理承認者が解除された」旨の通知メールが送られるようになりました。これにより、代理承認者は解除されたタイミングを知ることができるようになります。アップデート後の特別な設定は不要です。

## 2009年12月アップデートでのBossCheck Server 機能強化点

2009年12月アップデートによるBossCheck Server 機能強化のポイントは下記の通りです。

アップデートは、2009年12月のE-Post Mail Server および E-Post SMTP Server の修正差分プログラムを適用することで行われます。EPSTRS のバージョン v4.63 以降で以下の機能を利用できます。

### ① [(改善) 添付ファイル付きの条件下でも開封通知メールを除外対象にできる] : new

BossCheck Server 上長承認機能の添付ファイル付きのメールを承認条件としているときで、Outlook Express などに実装されている「開封確認メッセージ」が先方から要求されたとき、そのときに自動または手動で送り返される「開封通知メール」が、添付ファイルの一種として承認条件に引っかかっていましたが、この「開封通知メール」を除外設定することができるようになりました。

「開封通知メール」が、承認条件に引っかかっていたのは、「開封通知メール」が添付ファイルと基本構造が似かよっており、添付ファイルの一種として認識されていたのが、その大きな原因でした。

バージョン v4.63 から、添付ファイル付きメールと開封通知メールとを区別するため、Content-type ヘッダに 'report-type=disposition-notification' の指定があるときに、開封通知メールとして認識できるしくみを追加しました。このコードが含まれるメールは、添付ファイル付きのメールを承認条件としているときでも、対象から除外設定することができるようになります。

### ① [(改善) 開封通知メールの除外設定] :

#### 添付ファイル付きの条件下でも開封通知メールを除外対象にできる

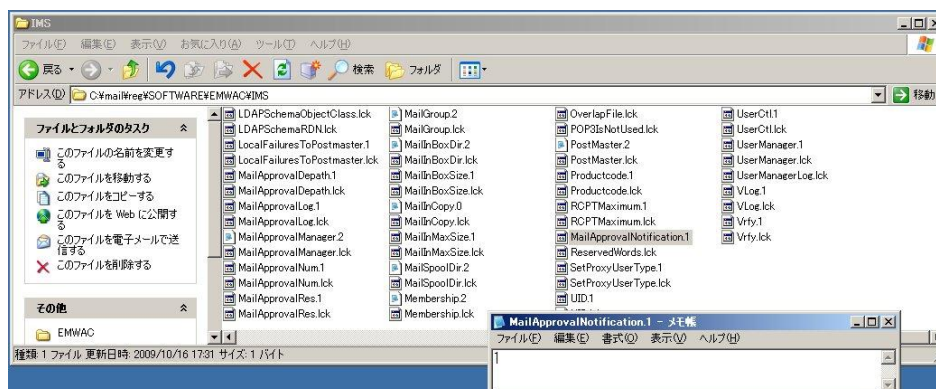
添付ファイル付きのメールを承認条件としているとき、「開封通知メール」を対象から除外設定できるようになりました。添付ファイル付きメールを承認条件としていないときは、この設定は関係ありません。

アップデート後、次の設定が必要です。

メール作業フォルダ (例: C:\¥mail など) の下記指定フォルダ内に "MailApprovalNotification.1" という名前のテキストファイルを作成し、その中に設定値を記述します。

<メール作業フォルダ>¥REG¥SOFTWARE¥EMWAC¥IMS¥MailApprovalNotification.1

(デフォルト値=1 / 1:除外する, 0:除外しない)





添付ファイル付きの承認条件を設定しているときに、「確認通知メール」を除外対象にする場合は”1”、除外対象にしない場合は”0”を記述します。行末の改行は不要です。ファイルを保存したら、Mail Control 画面の [サービス制御] タブより、EPSTRS サービスを再起動させてください。